

月指導計画と週案

※指導計画は食育の内容を含むものとする。

		施設長				保育責任者				担当		
子どもの姿	・前月の終わりにおける子どものありのままの姿、発達の様相を明らかにする。 ・現在の子どもの興味や関心について把握する。				ねらい	養護	・全体的な計画に基づき、その月の自然や社会事象を考慮して養護と教育のねらいを設定する。				行事	・主な行事
安全管理	・健康・安全面において保育士等が配慮すべき事項。				との連携	家庭・地域	・24時間の生活が安定するように、家庭との連携を密にする。 ・子どもの育ちについての相互理解を深めるとともに、保護者との信頼関係を築いていく。					
個別対応	組運営・				評価・反省							
		環境づくり		予想される子どもの活動				配慮・援助				
内容	養護	生命の保持	・長時間にわたる保育や障がいのある子どもなど、個別的な配慮を必要とする子どもについての保育士等の関わりと保護者への対応、組運営に係る配慮事項。 ・ねらいに沿った保育を展開するために必要な子どもの発達や援助等に対する保育士相互の理解と他職種との連携事項を明確にする。									
		情緒の安定	・子どもの姿を通して保育を分析し、次へ生かしていく。 ・一人一人の気持ちを受け止めて、適切な援助や配慮ができたか。 ・子どもが興味を持って、自ら動き出すような環境づくりができたか。									
		身体的発達に関する視点	健康	・子どもが自ら環境に関わり、自発的に活動し、様々な経験を積んでいくことができるような環境の工夫。 ・季節の自然を活用した環境づくり。 ・発達に応じた遊具、子どもの興味を予想した遊びの環境、運動発達を促す遊びや保育士等の関わりなど。				・子どもが行うであろう活動を予測する。 ・子ども自身が身に付ける生活と遊びの内容。 ・五感を刺激する遊び。 ・運動機能の発達を促す遊び。 ・スキップなど保育士等とのかかわりを楽しむ遊び。		・予測される子どもの姿に保育士等はどう関わるか。 ・子どもの発想や遊びの展開を大切にしながら、楽しさや充実感を味わうには、どんな援助や配慮が必要かを考え工夫する。		
		社会的発達に関する視点	人間関係	【異年齢で構成される組やグループで立案する場合】 ・年齢別に異なる経験する内容、環境づくり、予想される活動、配慮・援助については、年齢別の内容を記載する。								
環境	言葉表現											
第1週	日	【週のねらいと配慮】				【活動予定】(生活と遊び)						
第2週	日	・子どもの姿と月指導計画から「養護」と「教育」のねらいを押さえる。 養護-「～を図る」 「～できるようにする」など 教育-「～を楽しむ」「～を味わう」 「～を広める」「～を深める」など				【活動予定】(生活と遊び)						
第3週	日	【週のねらいと配慮】				【活動予定】(生活と遊び)						
第4週	日	・「ねらい」に対しての保育士の援助及び配慮。				【活動予定】(生活と遊び)						